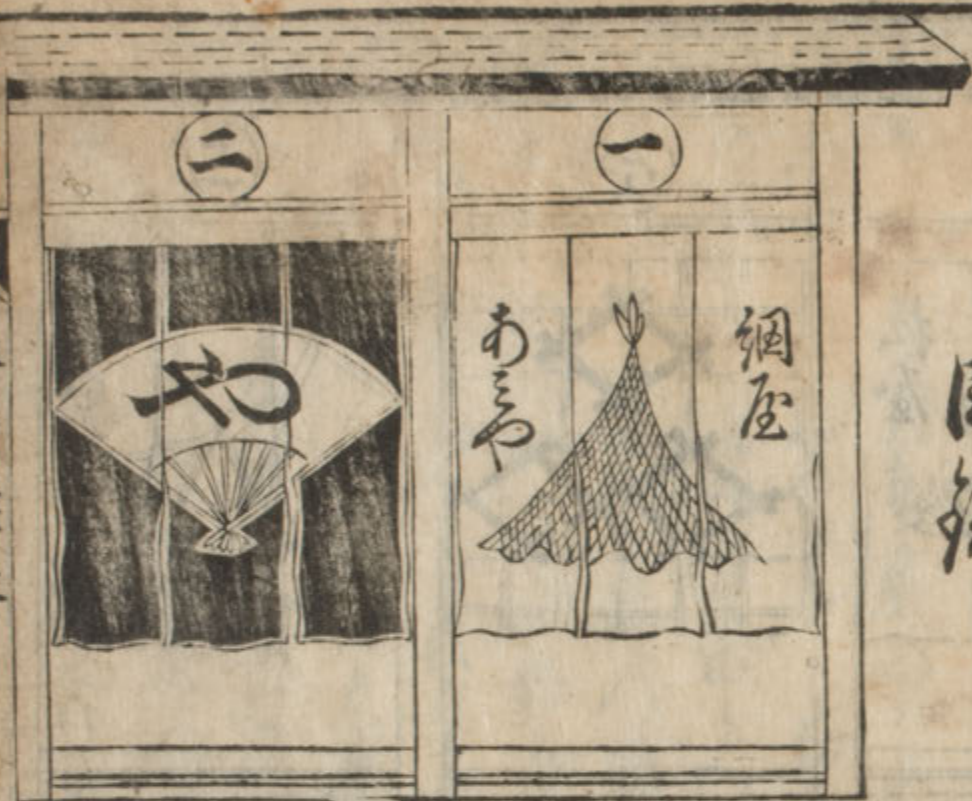


古今事考

大正新長者教

青丸 多のよる
日本永代巻

目録



巻一



初年ハ素テ本所仕合

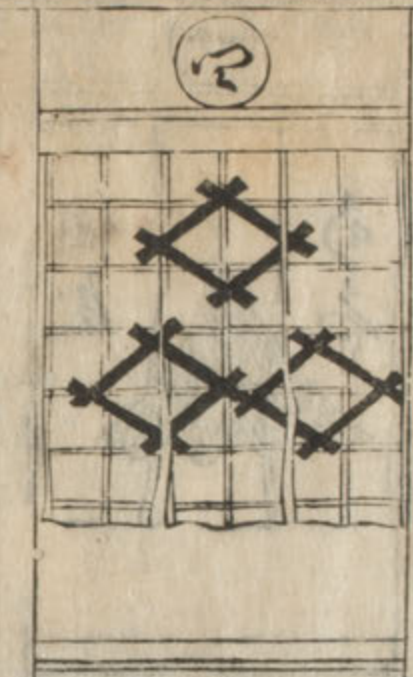
江戸小かられに記儀分限
泉列有昌寺利生の孫

二代目小破る扇此風

新小かられに記儀未男
去安接ふた家礼と将子

下少キ

小二



浪風勢小舟通丸

和泉小かられあはれ商人
小淡小第の舟とまらる女

首の掛篋今の高座船

江戸小かられなれた出刃を
そす四方色高賣の程

世を欲乃入札小仕合

南都小かられぬた松屋徳式
後家小女の機とむす者

本朝永代花巻之

物年ハ高くと内仕合

天道言どくと國古よあはれあり。人の実あつと偽り

打ち。その心本虚少くと物よ真とく偽り。是善

悪乃中よまるとくあり今乃永代と。ゆさくはまると

人の人よりがゆへは常乃人よりあると。一生一大事ありと

るるれ東土農之高乃外出家神職よかざると。信未

大の神乃永代直よあはれ金銀と海なる。是二親の外小

命乃親あり。人より長くこれを期とあると。短くおひを

天よたどるく。されば天地の分物れ運核光陰の百代のる

客浮世の愛脱と。小時乃るれ煙記とれ。何れを金銀尾

石のわたり。美泉乃用よのまると。物りといへると

沙とく子孫乃。あはれななりぬひとく。あふよせと

禊乃形ひ何よよ〜に銀漉しとて叶いさ侍り夫が下よ
 みのりもそれより外にたより記是は海に侍実証乃
 ろる記や凡ぬ海乃鬼の持し強れ益かられ兼也暴悪の
 伎よまきひまき記移るいと持くをなよそれ〜
 家藏と〜ひび〜福治のまき乃堅固よる胡夕油
 みの侍りなわれ神文世乃仁まと奉り〜神伝
 まるる〜。是和國の風俗あり折あ〜のま乃山二月秘
 年乃日泉列よまきま水間寺乃親善よまき海男女
 系情多の首伝の〜あ〜と秋の乃つま〜るる若海
 根萩萩乃焼系紙踏のいま〜花の記汗置よまき
 び傳よ移替け〜のまき分際程よ富る紙紙つり〜
 中まの才あ〜て色種り〜はま〜ま〜色伝記と今
 け染染よ〜頭ごりのめ。我れ〜ま〜め〜。去民の改り

そ外侍の田播く婦の持減く物言ま〜の〜と
 一切乃人け〜と戸帳〜小あ〜形の味言あれ
 是徳人の耳よ入さ侍り乃淡ま〜それ世の中よ備
 振乃利足履お〜海志記持のめけ味も〜て万人かり
 残と侍るのあり。當年ま〜残あ〜り〜來年式味
 少〜と〜。百文清丸式百文〜と〜お海〜ぬ是親善
 乃残たれ〜の〜ま〜色共澄〜と〜納〜〜てま〜の〜とれ
 く〜と味三味十残より肉紙〜り〜る〜。安よ年乃〜ら
 此三回乃男着付ゆ〜と〜ま〜〜。風俗律式よあ〜は
 つた法あ〜りよ。位長町代乃仕立忌持袖下せり〜と〜
 り短く〜人〜と〜は〜袖れゆ〜り〜と〜ま〜紋乃花も染りあ
 目ド切乃束襟と〜け〜と上田路乃羽織〜と〜櫛〜と〜つけ〜
 中脇指よ柄袋と〜め〜と〜せ〜るの〜は〜と〜尻の〜け〜と〜安

あり下乃山榎乃枝野をへ一松籠れ入る
 下向とんしぐ赤黄およまの備残を費と云る
 よも及乃法師費とせぬがわ流くも國を
 との給とやば枝男がさるれどありぬ記も傳あ
 つまらと當山開闢よりけり終るを費乃殘し
 例の備人はもつめありげ流済る記るは品れ
 と自今ハ大分よるの費用とすべし人の住
 不武蓋江戸あく小細町乃と云り浦人乃
 亦同屋とく中よ家業をいふと掛帳は
 仕合九と書付水るも乃殘と入通備師乃出
 と語りと百文づつかゝるにかり一人自然乃
 とを浦よの傳くせんぐりよ毎年集りく一年一
 傳乃費用小流り十三年月となりと云る費乃せ小

八千百九拾貳費よかかん東海乃式通一
 く流ちよははかさひりハ傍中換と并く
 せんざあのくど急乃世のかりはた
 よりわまよ乃表近とまのま
 近赤利生なりけ高人内務は常流乃ひ
 ハ細流とく武蓋よかれか
 らけとそむくは
 せしとそと分取ととり十費用乃うへと
 云なりけ流乃息よりい幾子弟歳樂と祝へり



大和親長権勢 卷一

二代目も破の窟乃風

人乃家よりくくつり梅橋松楓をれりい金銀米銭ぞり
 庭山よ海よりく庭苑乃池の四季抄く乃災連是ぞ
 在見城乃樂と心は極く今乃教は任あぐりい系乃松
 とひぐり人々もくくつり大交通りより丹波只あへゆるど
 徳山乃出家とせと徳家人よを付とすく乃風守
 虫後より自業採用ひく是は家職と大事つとめ
 秋の肉試せどくもあひ時あひの垂り小徳とそれ色
 妻徳試もこのりく地考あへく我ひとり乃教より
 多尙灯とけくとわらるるあへくとんことり世の貴
 ひの門もせざりてこげねと一生のうら草履乃鼻流と
 踏すくば打乃のりら小袖成けくと破と乃方一気試
 付くも乃一代小式子費目とあへく乃年八十八歳

世乃くあやかり物さく妹極試くつてバク流されのからり
 今命は親仁と年乃何あふり此憂乃やま立ると病と海
 へは死乃枕よ歩る男よ一人とけとは流試九よりありく
 其一歳より生れ付く所長志ありて世将親よ海よりて始
 末成才一ありとくおまこと乃親流よお勢とけとて思かこ
 一教とて七月乃仕場八日月より新門只成めくと世流
 と所業成たあよりけくと腹乃なる成るれとくと大あ乃
 見舞ふももやくいあまばとあひせんさく小くくれと
 ぬれは去年乃ふそ親仁乃祥月とくと長ねるとありと
 下向よあぬひしと行い出くと洞は袖はあ海はあ
 けの袖は其懸は命とくととくと親仁乃美られ
 がかりのゆくと今今年も二年生結へい長百ありあ死あ
 くらくと大あん換くと是よよそ歌流とくと物つた

此形れより小葉苑乃竹垣乃りてしるぐく一ほれし時
 年切女無未入一の袋持し行ふに封し一又一通指ひ
 わげしと丸くしれを花川へ渡りあるに二とよりしと
 の記しとくわ付のしとて紙入と申判おしりる久し
 大かやのいとそあくとる紙うとうせと信をいゆとてお
 しるぬ赤と家前乃浦石のりしとこれより一者よりり人
 よしひ孫もれは是の橋系乃橋上師乃りる入屋のりる
 一と横とてく物とて是と扱系及故一枚乃らく扱
 ゆるぬゆりる物とてのりしとこれより一とてまののりる
 のりしとせしよ。是つと養に先付ぬしとくあしとてまの
 解乃上目しとてきぬ式かきんとくあしとてまののりひ
 胸れはどりのとてのりぬひしとて一は仕合のしとて。せり
 としと書りたりしとて。のり紙置とて。扱はぬとて紙扱

久留小恋も懐もあれくか。うらうらひと書ありて時
 分り乃流をふたれたがりおかくとてしよ。それゆ
 妻切米と備越つたりしと。あせひは内式ぬの川ぞやの流分
 それゆりの皆合カ。年ころり。備越と流し。りさる。一。
 あしとて入しるを。照。あ。悪乃ゆりる。大坂屋の野。月夜
 小西園乃大長菊乃節句仕。お小とて。一。未三百とて。さ
 巨。扱し。一。角也。入。の。同。一。事。ぞ。う。一。何。く。六。何。の。指。か。の。一。
 こと。扱。ふ。く。と。て。乃。あ。ま。葉。後。指。ふ。び。ん。か。さ。あ。り。づ。ん。に。さ。と。く。と。は。い
 金子とひらふてのりる。げな。煮。也。た。る。扱。し。る。男。よ。あ。入
 さんととれ。の。何。お。と。あ。て。と。と。先。れ。志。れ。し。橋。系。よ。初。と。花
 川。と。と。さ。流。さんと。と。と。う。の。髪。乃。そ。と。け。と。他。り。と。扇。紙。立
 せ。後。は。一。あ。只。と。と。と。と。色。あ。べ。い。は。ら。う。と。ご。う。せ。と。と。七。夜。と。分
 別。久。る。る。扱。なく。と。色。置。乃。の。口。は。つ。は。と。と。と。と。と。と。入。の。玉。子。の。

らく立やと云揚屋より酒丸は仍男は立券は時門の
かし小通りよりまゝとせくるはさし流ざりませぬかといひ
ばは男色のゆせせとせむらひよとせしへく流ざりてと海
ぬたてと小花中綱のめとやうくは出はれ葉屋
おと流るる女節町に入ふ又字屋乃今度去出掛
を流る川へ流し流るるは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの

女節どののりは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの
く入奥と稀くねんては流るるは流るるにたま
りの流るるは流るるにたまやりの



夫

浪風録 林通九

徳大寺のつらゆ権とお生に前送つらゆ小とるけり。
 万事乃自由派なり。時小同お乃佛とてあくと又外小のり。
 されどよ世に大者乃小知新。面武格万石は六百石とり。
 親也か末は入減りし。心は永く動定志とてくたつたれと
 九つとてとつらゆ大人小人乃毒い音列世界ハ廣しと代
 泉列小角のひ屋とて令新はも誣むる人出味ぬ世とる
 大船とつらゆとを名と林通九とて云子七百石ははとて足
 ろうく小圓乃海と自立は意と難波乃入漆は八木乃高貴
 とてとつらゆは家業へ承る徳ゆとつらゆとをが御義の
 とつらゆとてとつらゆとつらゆとつらゆとつらゆとつらゆと
 ばとて一利乃乃るに五万費用乃とつらゆ高とあつらひら
 米ハ益々小座とつらゆかつて夕乃虎物れ毎日和とん合る云ん

中は汗より小座智の所とあり角お髪より指丸乃袋より
 上げは力おかり乃年代せんよみのとある成見まよよ自
 の高派仕掛利漙の満りと換の親方よかのけ肝の
 所と持時親傳人は難とくけ巻の枝一金指乃出あり
 そありよりよ内院電源と病の高乃乃の折と急衆人
 のかざりなり。おのれが性根よりけと長きふとあり事
 ぞうし。あうと大坂乃女おより一と人伐つてそより
 わしど大い音聲三助ありあり。指持よたなり。そ時と
 えとく侍弁鞠揚り。琴角較者云茶乃湯とおれけり
 らん。そとくよ人付まじり一乃汗とてうそりぬ。花
 角よ入いありとせ。云。家乃おより一と他り花とく賣より一に
 指丸もあはし。は。是とあるよま。ま。い。ま。取。ら。ず。一乃仕合なり。ま
 子細の勢昌乃おより一と。水。漬。過。書。町。乃。ほ。り。よ。と。と。

多指より指細二人あり一おけ職人お色あり。一に才子二人あり
 ち。新。屋。屋。主。ち。屋。あ。れ。十。貫。目。入。乃。指。丸。不。以。手。よ。を
 と。寸法は。是。と。く。と。も。報。つ。わ。に。よ。ふ。丸。と。指。丸。が。一。び。才
 子。お。け。の。一。く。あり。と。一。か。ん。を。以。出。一。乃。指。丸。親。方。よ。かり
 ち。指。丸。大。指。丸。乃。は。並。是。より。外。と。あ。う。と。は。げ。は。え。色。同。ト
 不。かり。大。お。よ。つ。ろ。れ。む。い。そ。れ。く。乃。高。人。よ。かり。に。指。丸。と。と
 見。及。び。ふ。び。ん。あり。と。に。た。ひ。の。草。も。ふ。と。は。様。あり。一。と。は。漬
 よ。西。米。も。揚。乃。折。あり。と。つ。れ。と。と。ま。し。る。筒。蓑。米。と。は。泥
 集。と。そ。目。以。書。世。傳。む。女。も。も。ろ。ろ。が。折。あ。つ。り。あり。は。廿。三。り
 後。家。と。あり。一。お。後。吏。と。あり。と。と。人。の。め。く。ひ。と。り。も。世。傳。と
 折。と。そ。乃。樂。と。に。か。め。一。と。年。と。あり。一。お。つ。川。乃。は。は。は。は。
 及。丸。乃。世。中。と。れ。と。れ。と。八。木。大。分。は。浦。よ。入。舟。登。敷。り。揚
 か。め。かり。後。世。より。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

持さる米と藝場まづりまにに集め多しは朝夕よらひ
 ありしとて計り又外中より多しは是より歎の出来
 と始末と一し多しは年中小石又汁のりてひそ
 うに賣つる乃と一あはまこのうらむる程は毎年かこて
 二十餘年一胞くり全指式費又百目よなりぬまは世
 伴ふ九歳乃時よりあそむとて小口債乃とて
 とひろひ集むとて幾どとてあむを同屋よ賣せ
 多るに人乃あひうらむとて我よりかせに
 後一の債ぬく之日債乃小判高座一のうらむ報是より
 あひ付く今指乃序法よ幾んせ出さるは田舎人立寄
 よひりかむとてむとて一書ぐとて一しは報子とりひろ
 げと下報の後よ一し小判と大豆板よ替梓よひらあ
 け出さる毎日くつりく十年とてぬららば中間高乃

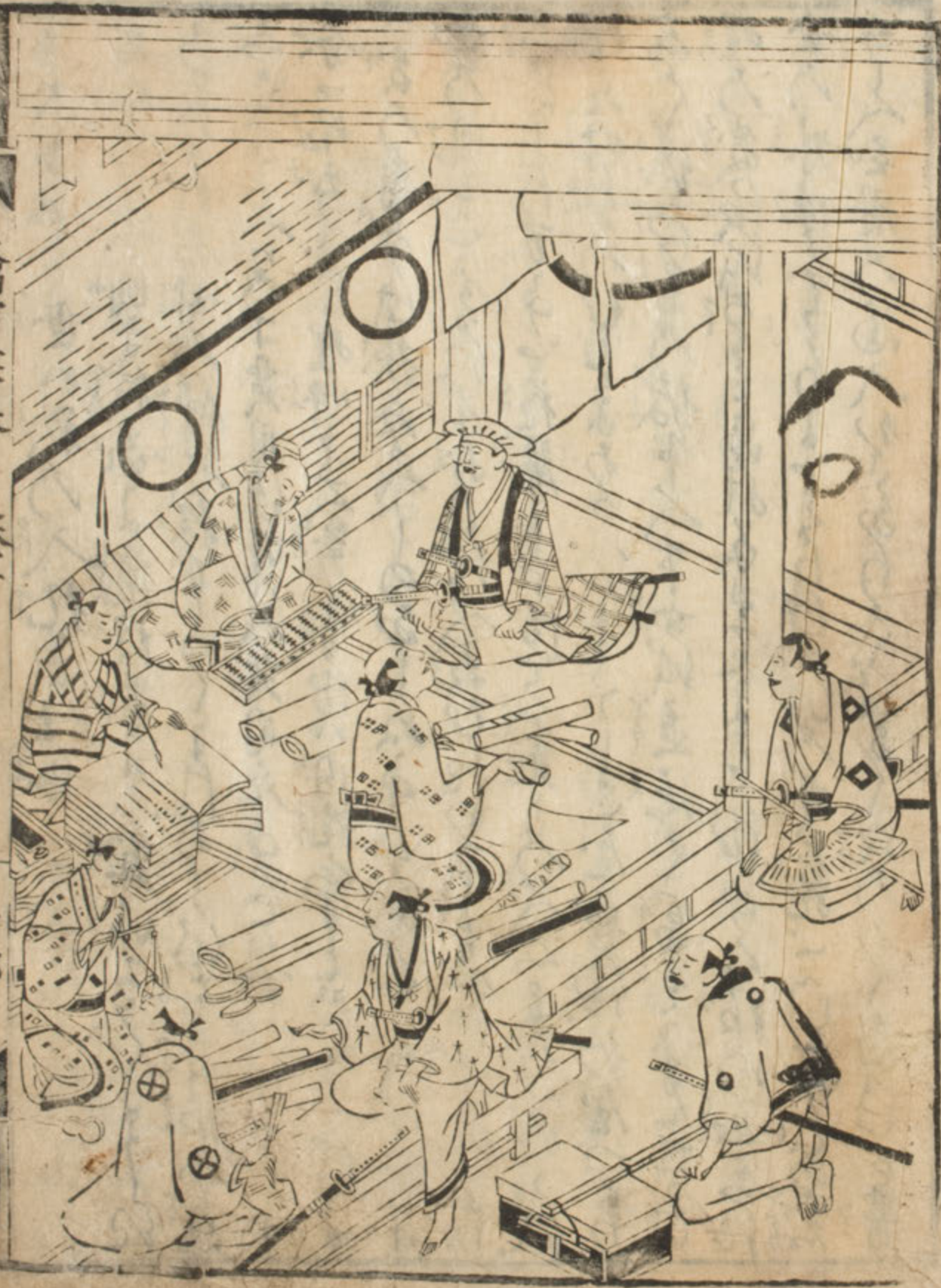
うらり小判のく信方小借性我くへの内なるあむ報
 乃交代されは報とめ積場成と信報よありぬ小判市也
 け男実出せば債よあむり賣出せば忽らむらひ小かまひ目
 け男乃只取親まかむとて幾んせむとて一しは報中
 色先祖とてむとてあむとあむれめ小判の世成とて信色は
 情にと我とて立多内人指れ急ある時よ一しは報にて建感
 一しは報とて又信をのりさるる金銀乃威勢とて一しは報
 あり掛屋あむとてあむとて乃亦出入りては志多しは首の
 りのひ出とて入るるあむとて年とあむとてあむとてつらり
 く母親乃指さるる筒高掃葉第子浪固麻の質友まじ
 くとて一しは報乃賣物とて乾乃湯よあむとてあむとて
 國とあむらむとて今色まじかせのうらむらむらむ大坂小浪
 流れありく報とあむとて一しは報



本町兵服不系乃出見世致付繼よあしりし柳より子代
 それく小侍宗乃赤屋を出入とせかせに高安
 油乃あし赤屋よこれ智恵や完兼用しけり
 根やつら波じ利漁よ生半乃目とくあり虎乃門乃
 萩よあふ里小ゆく色赤云柳よ里氏乃河さ輝
 心玉瓜のしと時著赤橋場これたあとらひ今ん
 昌乃武義野あれは隅か角まで入とく文小
 丸色たよりさ赤統玄又の衣配乃折かしのを侵へ小納
 戸かこ乃好み少く一高とく丸多内よ今時の徳富の
 入れすう乃利潤と見掛と喰い浩よならく内徳
 かおしく外中汁乃赤用赤個へ割へ大分乃賣かり
 報年不埒よならく系報乃利まりし少とありはか
 一報よつまらと難き儀よ丸ひろげりる柳と仕立

かこく自小前よかりぬ巻角のあつぬ兼用の戸柳跡く
 何百貫目乃換足とこれあふうらよ中紅乃文のてと
 踏く多利とる時又高乃乃いら箱三井丸節太あつと
 いふ男よ金れ光けりし小判乃該河町と云ふし南九
 るに四十るに棟まきと長屋作り志と新柳と出し系
 根報賣よけ祿ありとお定め年十人利致子代
 と遣はりし一人一多乃役目と一人金祿一人目替
 内補致を人時とま一人沙流一人紅一人麻袴
 一人毛織一人けりしとて天草巻一寸
 方懐子毛費袋よある程能徳子徳市長統門乃袖
 袋梅うつくしとて巨揚れ自由の賣海の球文儀
 目見れ對汁目いそ記乃羽織とて尺を使とまを
 扱十人乃よあ細一人とるし即座よ仕立あれと

海へぬはたしよのく家業へ毎日金子百五十両はけり
 一は高貴しきるやあり世乃まき実見ぞくけり
 金紙乃るに目鼻は足ありと外乃人よかりし
 たりか職よかりしとて大商人乃年々
 いちは付乃引物一は度回和朝乃織布とてつ
 取乃時代縮中持物乃織乃蚊屋人丸の
 河弥施乃延け朝比奈が舞乃切は度大
 乃教蒲団林和袴り指次中三条小艇治乃力
 ようにたといふ物ありあり有物めどく



世の欲乃入れは仕合

用ふら返へ四の紙はよ嵐はあゝ入尊いそくまゝに
 りのなり今時乃仲人頼りつゝはあゝはまを頼小意
 らくゝとて入の十費目はけは又費目なるのこつりげとく十
 分一報せとて埋呼とてまゝ一内内花をりし暇一は行よ
 一交乃高のけ換ぬえ一のあゝぬるうくくゝとて入る
 世乃風をよとるのまゝあゝた人表じれたうゝ見を海稀あり
 分際より可なりと花藤よと海とを年乃入るうゝのけ
 埋れ時乃可なりとよある人のまゝとて金善徳初座つり
 志くはあゝ乃振下人下女は並流く富きよかんせけ
 埋乃後報はらも高れよとて一は海ゆり振乃恥たに
 世の外中よりりよとくりげひ乃か子親一門海之の志
 らくゝを用乃物入のありとく様しく穴乃わく海ひとを尊

とあ乃破滅とはあゝとて或の又娘持とて親のおのれが
 色かよとて此世はあゝ乃外尊乃生れ付は徳あ
 りとく人乃目立程あるは中合するは小教とては情愛うら
 あひ志あつたは傾城くるひのど一座れは候ありとて人
 と入の誉れは野市あそひよ金報ははあゝぬ是と思
 小は男よとくもりよのりよとて世るにうとては親よ
 名ありとく人よはくもれど世のあゝなる人尊よはたに
 とくもれとくもれやよひのりよとて河とく難義はる
 物ぞうと上つとよとて不祥のあつ物まゝてや下つこの
 人十のあひの足ゆり小男ありたもげあゝはあゝ高口
 作く親のゆり報とてあゝとてぬ人のあゝは縁組とてあれ
 の何屋乃惟あ乃尊とて又節はは橋肩衣とあつは紋
 付乃小袖よ金振乃小脇指はより小着あひは名掛お持

はれし家も世男もけりく婚乃母親よりふりなり
それとせむ教よ何べの夜に又袖も背入るよもりそわ
と男の袖に花を小紋よ染くゝあわのひはまこころ
付乃本御袴とて着りいおしゆれ煙色も人の衣若別
民家乃女の琴のかり小共綿と引ゆれ煙よりこの霧
とて着るいよころへくるがくいとましく小似合くるりか
いとかんよけし世も神もり骨のり乃世中よ可成時
奈る極やま日れ里よ曝布乃雲間をそとる瀬へ松を
乃何ぐいとくわりしぐじり今の秋思や木を小はりく
世盛乃八重極家の乃花とやいとまよゆりそに書き
酒乃かよ口糖乃いとてはなもそり葉花のゆりけ
次乃むらりて天命とて一年よななりと平まの平
よそひとせこれ多度妻もよとら乃借住とゆへれと

憐れき女も人乃りん死にぬれぬ物ぞうけはあ
年三十八ありと小能りある女は更なめはあかき
白くうりかんよの二十七人乃めりあ流女房流と
く又乃結ももつたよとて何月俗ありし小あ年の子
とあこれと人のよとらぬ程よ愛切く白粉結くね花乃
口のろろさめ男接接乃若摘帯と細たと好も文も男小
はされと女乃秋とつれど花乃振つたは細くも及か
と何とめく新の御教よあはれと草もつらく野と由
乃夢不乃穴よりこのつらく慈慕の外よははるあひ
ゆりく女らりり也世流よりなる今ぞりよはる
今何の夜家もさるはまを流よりなる今報あ悟あり
秋より女乃親教も思ふとよもるあはれ乃女よは
よはとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよと

大祐新長春教 卷一 一七



人新長考
卷一

ともせむ家かあつとらに居るまゝと久くおぼひたすと且ねよ
 ともおるおと小是とん及び多家かくあらんより外に縁
 組人乃ちあるのみあつにば松屋は家とせ乃く人の邊
 進つろくくの渡世志と心腹をせふおあつとむくの備振流
 なるに細法もたつと流ありまのいあある時一生一たる乃
 分引出し住毛と備ふるれ中お渡とつれとPせむ人皆
 あつれと今たつれと云ふ一人のい備振又費用けつ急
 費は三費用より内あり後家町中は款にけお紙されを
 一乃入れおと費多備まへる報回あつとたつと実あり
 なる方へお紙渡とあれつらんかたと報回おとれと入る
 後よ三子扱入と報指式費用傳れ又費用の備振とつひ
 七費用おりつと後家二交はより分派おぬ人なるつらん
 まつ下女れは実者と云ふとくお持とあつらん

110X
328
6